

熊本市川尻地区における景観形成の推進のための調査報告

1、対象地区の概要

川尻地区は熊本における水上交通の要所・商業の拠点機能を持っていた。しかし、繁栄を誇った川尻地区も近代になり、陸上交通の発達及び社会・経済構造の急激な変化に対応できず、次第に衰退の道をたどり、熊本市の中でも取り残された地区となった。ところが、このことが幸いして江戸期の町筋、土蔵作りの荘屋、昔ながらの町家が群れとして残っている。戦災にも受けずに昔の面影が残っている町である。この良好な景観を考えると、伝統的建物を残し、新築も伝統的建物に準じる方法が良いと考え活動している。

2、対象地区の景観形成に関するまちづくりの経緯

* これまでの景観形成に関するまちづくりの経緯と現状

川尻地区は人口 9700 名・2700 世帯である。どんな町にも建築関係者は存在する。建築関係者である設計事務所・工務店や大工・木材店・電気工事店・建具工事店・板金屋で構成し、町並み修景を目指した川尻六工匠を平成 5 年に結成した。

町の家建築行為で利益を得ている建築関係者は、町を美しくする義務があると考えている。しかし、最近の洋風住宅の進出スピードは速く、どのような手を打てば、町の景観を守れるかが問題だ。

* 川尻地区に関わり始めた時期・契機・活動の目的とこれまでの活動内容

私たちが、施主を説得し、良好な景観形成に配慮した新築・増築・改装などを行なった建物は、10 年間で 50 件を越える。その他郵便受けの統一・木製の自販機囲いの設置・木製ベンチの設置・醜悪看板はずし等景観を意識した本業以外の活動も多い。

総合学習の手伝いを 5 年間続けている。中学校の本箱・街中のベンチ・フラワーボックス・小学校のボール小屋等を作ってきた。地域活動には欠かせない存在になってきた。

* 川尻地区に関わっている他の組織・団体

川尻六工匠の他にも菓子屋さんの組織「川尻六菓匠」や若者の組織「川尻青年協議会」がある。すべてのボランティア組織を包括する「熊本市南部地区市民の会」があり、川尻六工匠もその一員である。それぞれがリンクし、有機的に協力応援体制をとっている。

川尻六工匠は建築専門員で構成しているので、ものづくりが可能な実動部隊なので、いろいろなイベントへの協力依頼が多い。そのことが他の組織・団体との関係がうまくいく。

3、活動の内容及び成果

良好な景観形成に資する住まい・まちづくり活動やその活動のありかた等について検討するために必要な情報・知見を収集することを目的に、川尻地区において次の具体的な活動を実施した。

* 川尻地区の住民の景観意識調査の整理

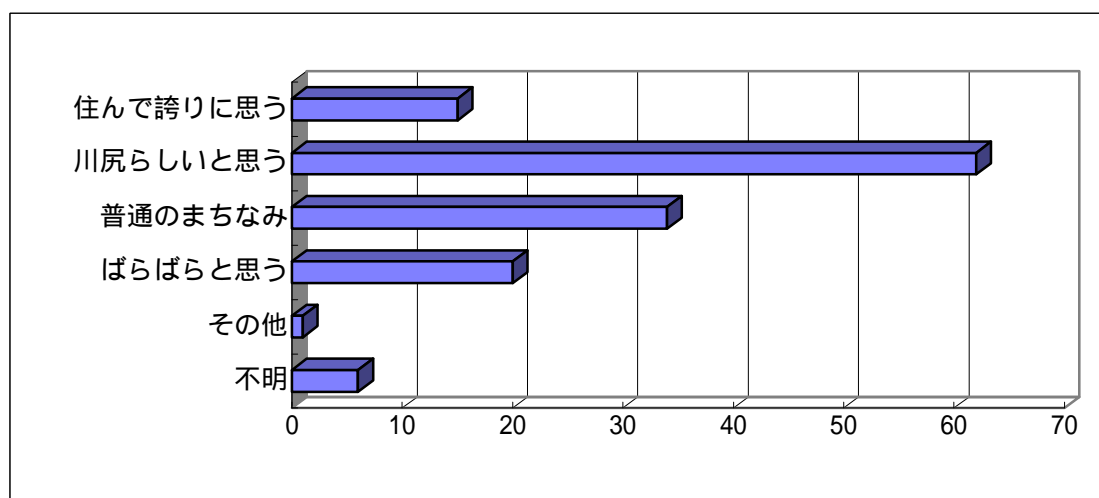
川尻地区の住民に対して行った景観アンケートを 13 年に行ったが、整理ができなかったものを専門家（コンサルタント）に依頼し、まとめあげた。

まちなみの評価

「住んで誇りに思う」・「川尻らしい」と思われている方が56%いるのに対し、「普通」・「ばらばら」と評価された方も40%近くいました。

地区別に見るとA地区では、「住んで誇りに思う」・「川尻らしい」が62%、「普通」・「ばらばら」が34%で、B地区では、「住んで誇りに思う」・「川尻らしい」が50%、「普通」・「ばらばら」が45%となっています。

問2 現在、住んでいる地区のまちなみの評価	実数	%
住んで誇りに思う	15	10.87
川尻らしいと思う	62	44.93
普通のまちなみ	34	24.64
ばらばらと思う	20	14.49
その他	1	0.72
不明	6	4.35
合計	138	100.00



まちなみへの配慮意識

「充分配慮する」・「ある程度配慮する」と思われている方が 79%いるのに対し、「業者まかせ」・「勝手にたてる」と思われている方は 12%でした。

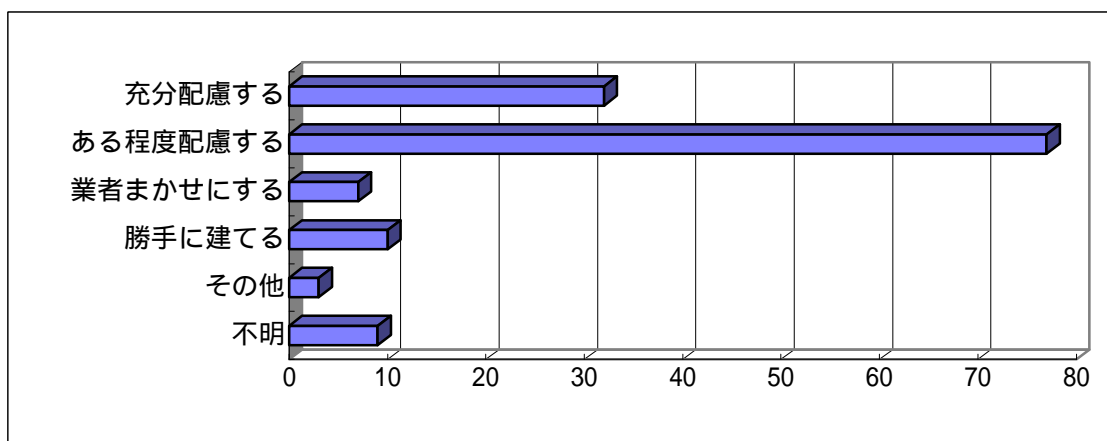
地区別に見るとA地区では、「充分配慮する」・「ある程度配慮する」が 78%、「業者まかせ」・「勝手にたてる」が 11%で、B地区では、「充分配慮する」・「ある程度配慮する」が 80%、「業者まかせ」・「勝手にたてる」が 14%となっています。

「充分配慮する」は、A・B両地区とも 23%で同数となっており、「ある程度配慮する」も同様の傾向となっています。

「業者まかせ」は、A地区では、1%、B地区では、9%、

「勝手にたてる」は、A地区では、10%、B地区では、5%となっています。

問3 建物を新・改築などの際のまちなみへの配慮	実数	%
充分配慮する	32	23.19
ある程度配慮する	77	55.80
業者まかせにする	7	5.07
勝手に建てる	10	7.25
その他	3	2.17
不明	9	6.52
合計	138	100.00



まちなみづくりへの意識

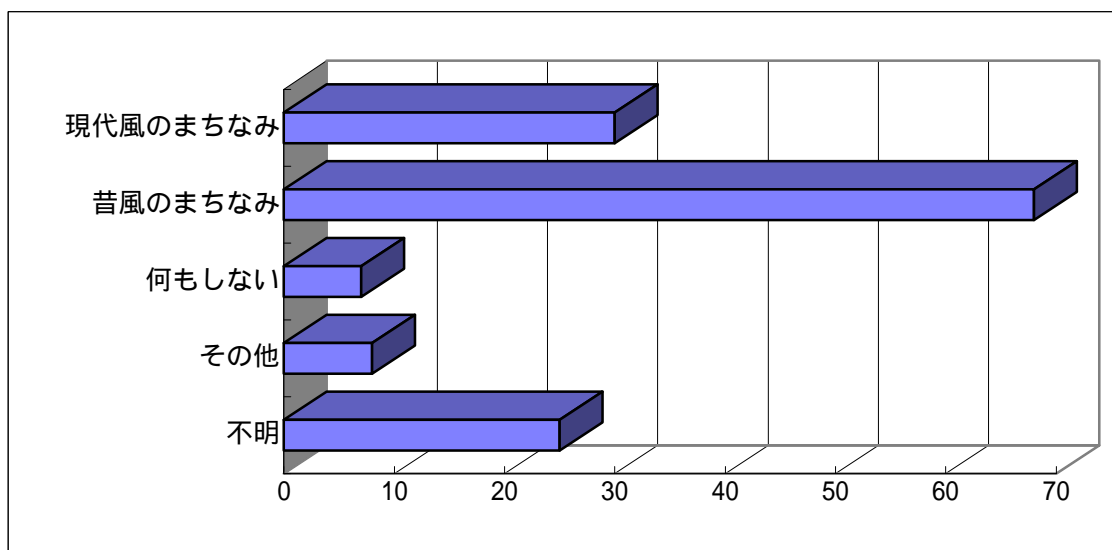
「昔風のまちなみ」・「昔風のまちなみと道路整備」とあわせた「昔風のまちなみづくり」イメージされている方が49%いるのに対し、「現代風のまちなみ」・「現代風のまちなみと道路整備」とあわせた「現代風のまちなみづくり」をイメージされている方は22%でした。

地区別に見るとA地区では、「昔風のまちなみ」・「昔風のまちなみと道路整備」とあわせた「昔風のまちなみづくり」イメージされている方が55%で、B地区では、43%になっています。

また「現代風のまちなみ」・「現代風のまちなみと道路整備」とあわせた「現代風のまちなみづくり」をイメージされている方は、A地区では、21%で、B地区では、23%になっています。

「何もしない」は、A地区では、3%、B地区では、8%となっています。

問4 住む地区をどんなまちなみにしていきたいか	実数	%
現代風のまちなみ	3	2.17
昔風のまちなみ	17	12.32
何もしない	7	5.07
現代風のまちなみにあわせた道路整備	27	19.57
昔風のまちなみにあわせた道路整備	51	36.96
その他	8	5.80
不明	25	18.12
合計	138	100.00



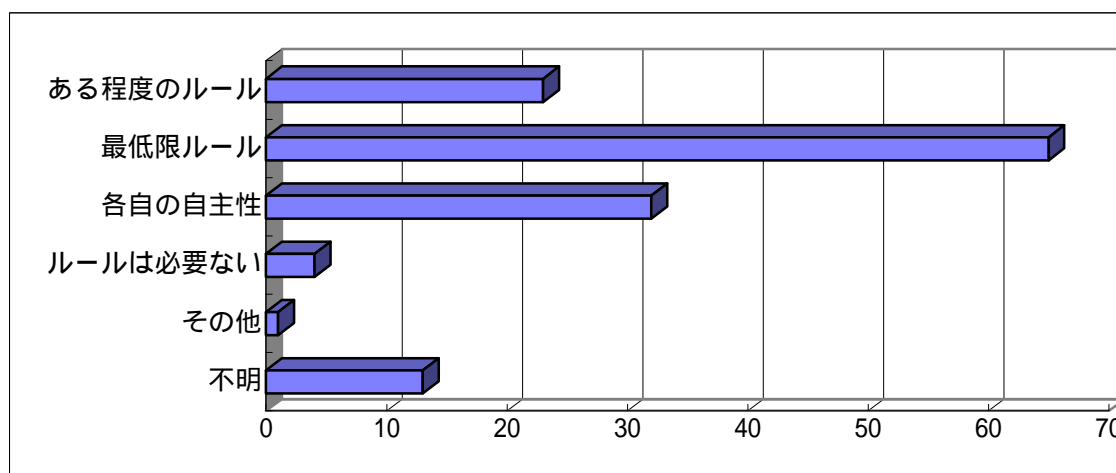
まちなみづくりへのルール必要性に対する意識

住みたいまちなみ、後世に引き継いでいくまちなみづくりのためには「ある程度のルール」・「最低限のルール」とあわせて「まちなみづくりのルールが必要」と考えている方が64%いるのに対し、「各自の自主性にまかせる」・「ルールは必要ない」とあわせて「まちなみづくりのルールは必要ない」と考えている方は26%でした。

地区別に見るとA地区では、「ある程度のルール」・「最低限のルール」とあわせて「まちなみづくりのルールが必要」と考えている方が69%いるのに対し、「各自の自主性にまかせる」・「ルールは必要ない」とあわせて「まちなみづくりのルールは必要ない」と考えている方は21%でした。

B地区では、「ある程度のルール」・「最低限のルール」とあわせて「まちなみづくりのルールが必要」と考えている方が58%いるのに対し、「各自の自主性にまかせる」・「ルールは必要ない」とあわせて「まちなみづくりのルールは必要ない」と考えている方は32%になっています。

問5 住み、引き継いでいくまちなみづくりのために	実数	%
ある程度のルール	23	16.67
最低限ルール	65	47.10
各自の自主性	32	23.19
ルールは必要ない	4	2.90
その他	1	0.72
不明	13	9.42
合計	138	100.00



* 景観意識の向上を図る啓蒙活動

川尻地区には「熊本市伝統工芸会館」がある。この施設を利用し、対象地区において、これまで12年間にわたり、行ってきた景観要素となる建築物の保存・活用活動の成果を、展示した。見慣れた川尻の町並みを写真で再確認し、住宅の写真をパネル化したものと住宅の模型の展示を行った。

題目 木とのふれあい工房

場所：熊本工芸会館2階展示室 2月9日～2月13日

新聞ちらし9300部を、川尻地区およびその近郊に配布。

来場者400名があった。



展示会の看板

まちなみと模型展



展示会場風景

* 景観要素を理解してもらう啓蒙活動

景観形成を住民に理解してもらうことが最近困難になってきた。FC住宅やサイディング住宅の普及である。外壁タイル調サイディング張りや、りかちゃん人形の家みたいな高气密住宅は川尻の町には似合わない。消費者は景観形成に理解は示しても、我が家となると目新しい性能を優先する。住民への景観啓蒙運動には限界を感じる。

個人の好みにたいしては、個人の好みに訴えるほうがよいと考えた。景観そのものではなく、景観要素となる家個について考えてもらうことにした。日本の伝統建築要素を再認識してもらうワークショップ型のイベントを開催した。

個の家の木組みの家の特徴や、民家再生の手法、土壁や気候風土を考慮し、個人的な思い出や自然を取り入れた手法の家に理解を求め、洋風住宅をやめ、日本住宅を建てること
が、結果として景観形成につながると思う。

具体的に次ぎのを行った。

道端に伝統木造の軸組をつくり、町行く人に5日間見てもらった。

上記を利用して餅投げを2回行った。参加者140名



金物を使わない伝統工法の軸組み



軸組みに行事を掲示



餅投げ風景 1



餅投げ風景 2

杉・桧を用いた木工教室を開く。

二日間で80名の参加

初めて鋸や金槌をにぎる子供が多かった。木を知らない。釘を知らない子供が意外と多かった。このまま大人になり、木の良さが分からなくなり、木造の良さがわからなくなり、町並みの大切さもわからなくなるのではと思った。

もの作りの楽しさを子供のときから教えないから、家はつくるのではなく、買うものという意識になるのではないだろうか。



木工教室風景 1



木工教室風景 2

かな屑のプールを造り、宝さがしを行い、商品としてお菓子をやった。
木の香りがプンプン漂うかな屑の中での、宝さがしは、クサイ・という子供がいたが嫌いかと聞けば、好きとの答えが返ってきた。
木の臭いを知らない子供。土壁を知らない子供。瓦を知らない子供。景観啓蒙活動は幼児期からの教育は大事なのだと思った。



宝さがし風景



商品渡し

熊本県の杉の50年立ち木を輪切りして、年数を提示し、山の苦勞と国産木材の安さを訴えた。50年そだて30メートルにもなったのに、林家に残るのは、わずか8000円。ほとんどの人がびっくりしていた。



30M 杉の木 1 本

土壁模型の展示

川尻の街並みは個々の家の集まりで、個の家は色々な建材の集まりである。建材はシックイ・杉板・かわら・木組みの構造・土壁の集まりである。特に土壁を近くで見てもらった。



土壁のサンプル

土壁の説明文

民家のミニチュア模型展示

会場内を演出するのに、ミニチュア民家作家井手さんから借りてきた。年配者だけでなく若い人も見入っていた。



ミニチュア民家

水前寺公園内古今伝授の間のミニチュア民家

対象地区の建築協定書の素案の作成

景観形成住民協定（まちなみ協定）によるまちなみづくりについて

一口に「まちなみ」と言っても「まちなみ」は一日でできるものではありません。誇れるまちなみは、その地域の顔であり、「まち」そのものといえます。

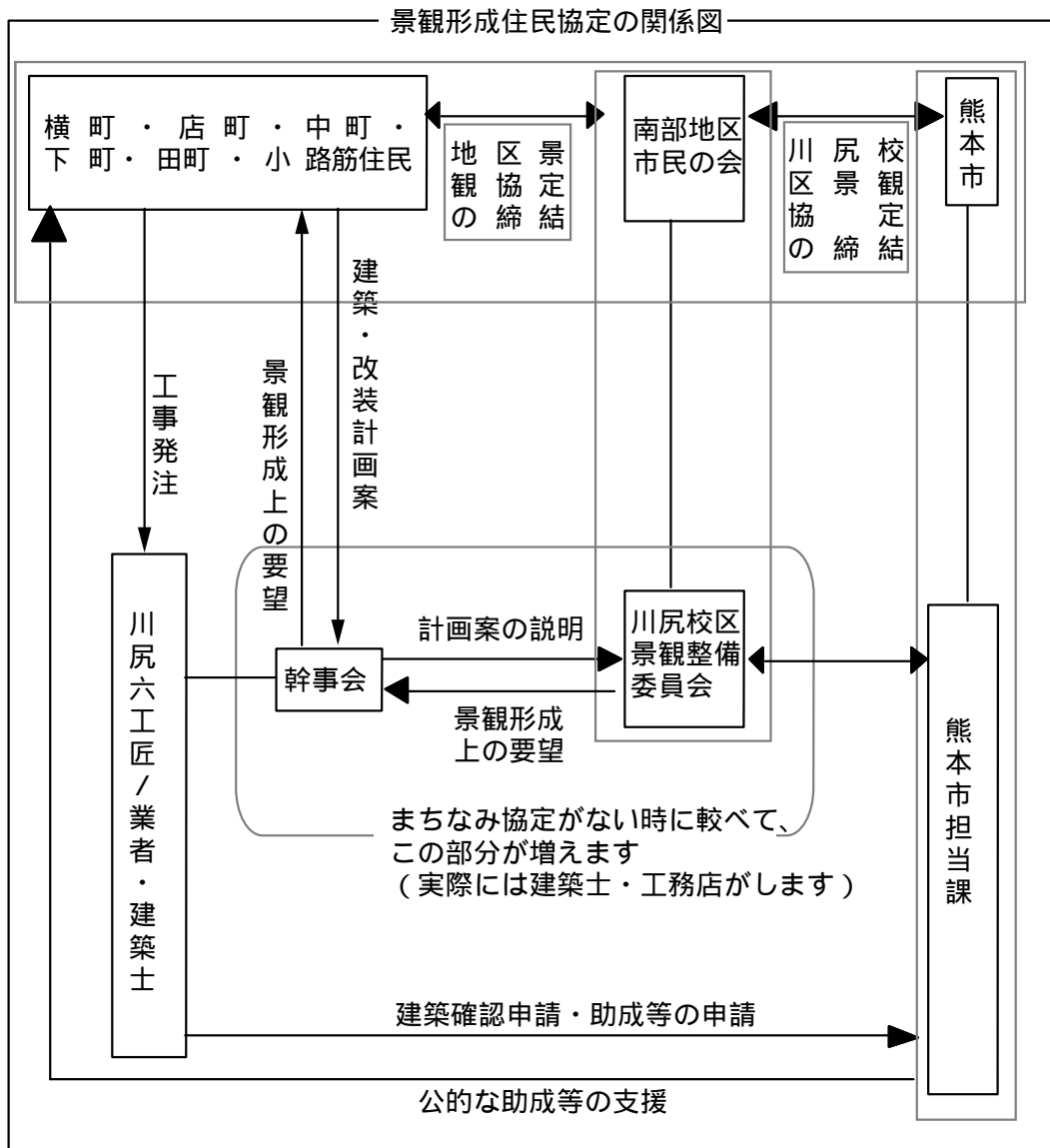
まちなみづくりは、そこに住んでいる一人ひとりの協力と時間の積み重ねによって初めてできるまちづくり活動の集大成と言えます。

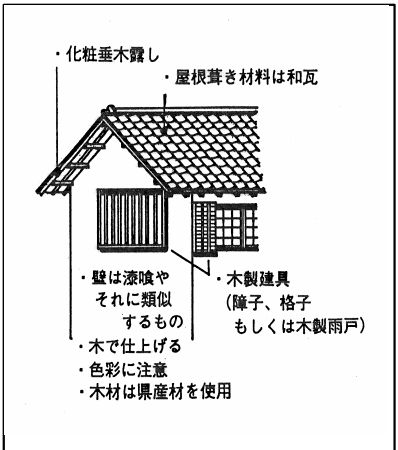
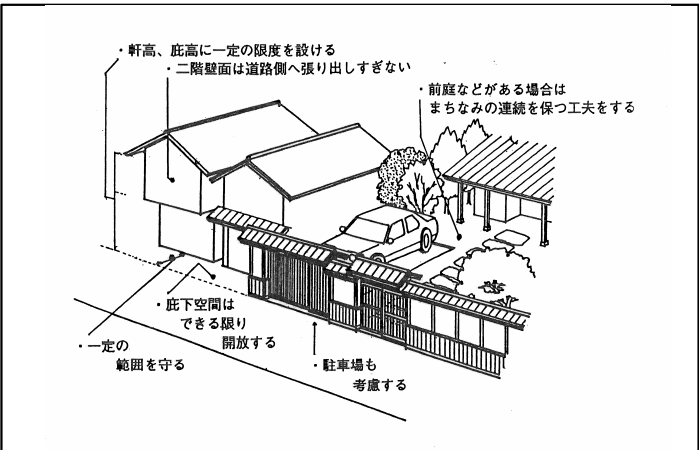
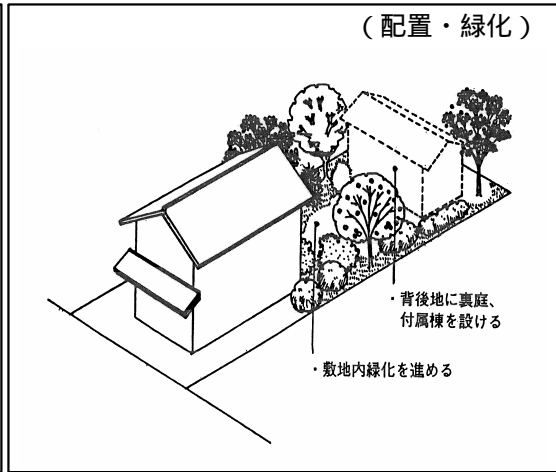
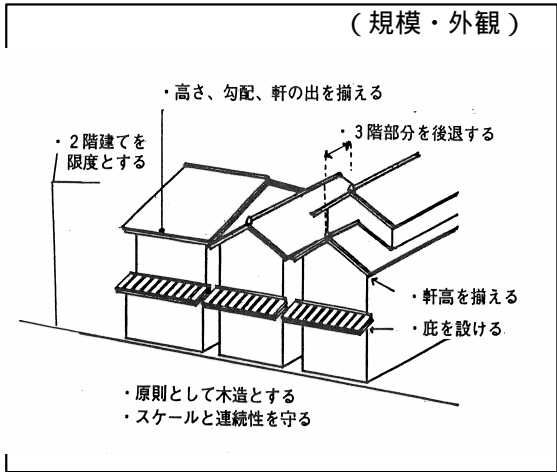
まちなみ協定は、通りから見える外観のまちなみづくりを進めていくひとつの方法で、住い方やその機能を制限するものではありません。

まちなみ協定を結び、その協定にそった外観を持った建物であると利子補給や助成など公的な支援を得ることもできます。

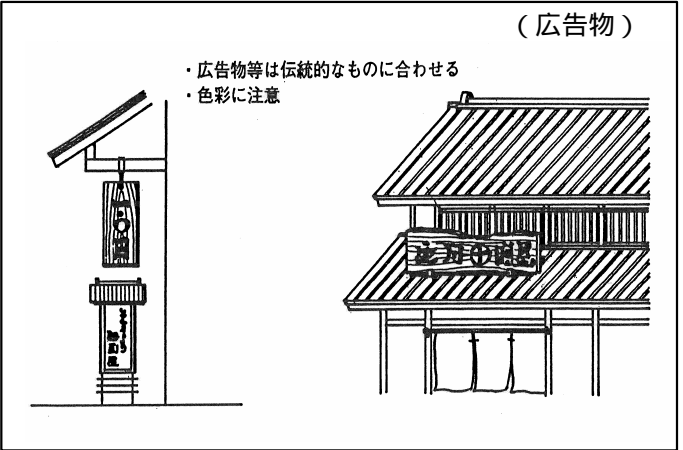
協定を結んだからといって、すぐに新築や改装を強要するものではありません。

家の事情で新築や改築などをするときを考えます。





これらの基準は、
強制ではなく、
あくまでも原則で
あって、幅広く
運用されます。



本協定の沿線で、建物の新築、増改築、敷地の区画形質の変更等の工事を行なう場合には、できる限り早期の段階で計画概要を景観整備委員会に申請して下さい。
景観整備委員会で計画の了承が得られると公的な助成等が受けられるようになるかもしれません。

4、今後の展開

期待される効果は洋風化が進む中で、川尻だけは、日本の伝統建築の良さを理解してもらい、日本の家が建ち並ぶ街を作っていく。

今回のイベントは速効性があるものではなく、いままで12年間実践してきた延長線にある。とくに子供たちに日本の建築要素の木材に興味をもたせることが、20年後、30年後の景観形成運動につながっていくと思う。

5 活動のポイント

活動の人材

川尻六工匠の工事グループの中に20歳の大工6名いる。プレカットは禁止。手作業での大工工事を強いている。座学での大工学も開催して、景観教育を行っている。

景観保全には、つくる職人を将来的に確保していなければならない。

活動のための資金調達

これが問題だ。校区が90もある熊本市の一部であり、行政からの支援は無い。資金調達の解決策は無い。しかし、金は無い方が調達方法を考え、知恵が出る。

活動のネットワーク・支援

見学者が良く来られるが、はたして勉強になっているのか疑問である。単に予算消化の旅行ではないだろうかと思うことが多い。そして、パンフレットはないかと聞かれる。

いままで、私たちは日本全国を数10箇所廻った。ネットワークが広がれば、わざわざ行かなくても情報がえられる。